

特発性後天性全身性無汗症の病因解明

試料・情報の利用目的 及び利用方法	指定難病である特発性後天性全身性無汗症の病因解明を目的として皮膚組織残検体の汗腺からRNAを抽出し、RNAシーケンシングという手法を用いて病因に関わる遺伝子の発現を調査します。その結果が新しい治療の開発につながるかについて診療・臨床情報に照らし合わせながら検討します。
利用し、または提供する試料・情報の項目	2011～2013年の間に当院で診断を目的とした皮膚組織採取を施行された特発性後天性全身性無汗症症例の中で、残組織保存・研究利用に関する包括的同意書に同意いただいた4例の皮膚組織残検体遺伝子の種類とその発現量を解析します。また診療カルテから年齢、性別、既往歴・家族歴、病歴、検査結果、治療内容とその効果に関する情報を利用します。
利用する者の範囲	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学教室：組織管理・処理、個人情報の管理。 大阪大学微生物研究所遺伝情報実験センター：連結可能匿名化された、個人を特定できる情報を含まないRNAを扱います。
試料・情報の管理について責任を有する者	遺伝子発現量は対応表を作成することで個人を特定できる情報は含まない形で処理されます。対応表は厳格に保持します。 (管理責任者) 大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学教室 室田浩之